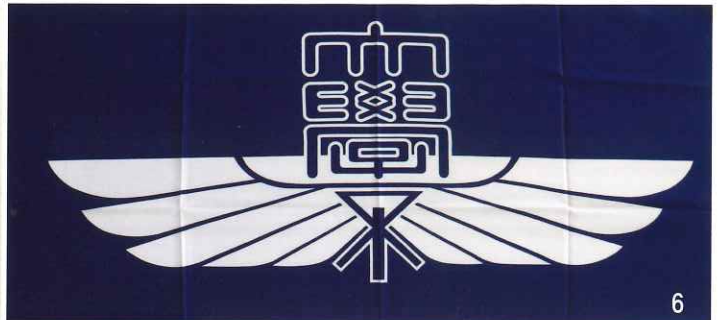




1



2



6



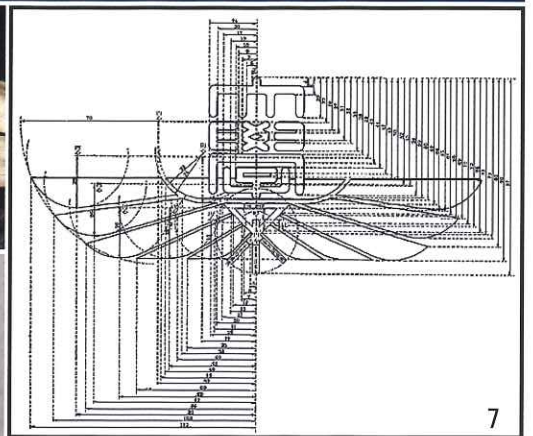
3



4



5



7

## 学章、学生・卒業生の活動からたどる 140 年

大学の知を発掘  
017

◆学章の移りかわり 大阪市立大学は、2020(令和2)年に創立140周年を迎えた。その源流は、1880(明治13)年、西区<sup>いたちほり</sup>立売堀<sup>1835-85</sup>に五代友厚らによって開設された大阪商業講習所にある。これは、私立の講習所であり、商業の専門的人材を育成するための学校であった。その後、この講習所は、府立大阪商業講習所(1881、明治14年)、府立大阪商業学校(1885、明治18年)、市立大阪商業学校(1889、明治22年)、市立大阪高等商業学校(1901、明治34年)を経て、1928(昭和3)年設立の大阪商科大学につながる。1949(昭和24)年に、大阪商科大学、大阪市立都島工業専門学校、大阪市立女子専門学校が統合され、大阪市立大学が誕生した。さらに1955(昭和30)年に大阪市立医科大学も統合された。このような変遷の中で、学章(帽章・襟章)も移りかわり、その時代の学生や教職員はそれらに愛着をもっていたことだろう。

1892(明治25)年以前に使われていた帽章は「商」の文字を素材としたものであった(写真1)。1892(明治25)年、堂島校舎開校を記念して、「梅の花」を素材にした帽章が制定された。この「梅の花」は、学校近くの大坂

天満宮の「梅鉢紋」と関係があると推定される。後身の大阪高等商業学校の帽章は、「梅の花」の図案を継承し、中心に「高商」の文字を配したものであった(写真2)。

大阪商科大学の学章は、「商大」の文字を図案化したもの(写真3:帽章)と、その両側に「羽翼」を配したものがあ(写真5:襟章)。この羽翼は、ローマ神話の商業の神「マーキュリー」を意味する。大阪商科大学高商部および予科の帽章は、大阪市の市章である「滯標」を中央に配し、「OUC」(Osaka University of Commerce)の文字を組み合わせ、その両側に羽翼を配している(写真4)。

1949(昭和24)年に大阪市立大学が誕生したが、しばらく学章は制定されず、「市大」と「羽翼」を組み合わせたマークが学生達によって広く使われていた。

現在の学章は、1962(昭和37)年に公募によって決められた。当時、生活科学部の学生であった北浦かほる名誉教授の作品が選ばれた。大阪商科大学の学章を継承し、「大学」の文字が「滯標」と「羽翼」に支えられたデザインで、素材の比率が厳密に決められている(写真7)。大学旗(写真6)は、この「学章」と「大阪市大ブルー」でデザインされている。



140周年展と大学史資料館(大学博物館)  
実現にむけてご寄附のお願い → 大阪市立大学夢基金  
お申込み時に TOP1「創立140周年記念事業」を選択してください  
【お問い合わせ】大学サポーター交流室(夢基金担当) TEL06-6605-3415  
<https://www.osaka-cu.ac.jp/ja/about/fund/xbtf2s>

編集発行  
(仮称)大学史資料館設立準備委員会  
学術情報総合センター6階 大学史資料室内  
TEL: 06-6605-3261